



●カメラリポート●

地域防災計画を
住民で見直しへ

地域防災計画の見直しのため、6月11日(月)から全自治会を対象に6会場ごとに順次、町民懇話会が開催されました。

町の地域防災計画は、平成17年度に見直しを行い現在に至っていますが、その間、関係法令の改正や、神奈川県被害想定の見直しなどがありました。昨年3月には未曾有の規模の東日本大震災を経験したこともあって、皆さんの防災に対する意識が高く、各会場ともとても活発な意見が交わされました。

町民懇話会を全自治会で開催

懇話会では、「避難所の変更や安全性の確保」、「災害時の分かりやすい行動マニュアル」や「要援護者の把握と対応」などについて意見が出ました。

町としては「自助」「共助」「公助」に加え、東日本大震災で機能したといわれる隣近所での助け合い、つまり「近助」を重視して自守防災を検討していくこととしていきます。皆さんも日頃から「近助」を意識しながら災害への備え、心得を準備しておくことも必要です。



▲かなん沢・中里地域集会所で開かれた熱のこもった町民懇話会の様子

広報まつだ6月号(1面)でもお知らせしていたとおり、5月27日(日)に酒匂川町民親水広場で神奈川県と1市5町(南足柄市と足柄上郡5町)、足柄消防組合などが合同で水防演習を実施しました。この水防演習が松田町で行われたのは平成16年以来、8年ぶりのことでした。

この演習は、近年、全国各地で豪雨や台風などによる水害が増加していることもあり、被害を最小限にとどめるために、県が中心となり開催されたものです。「自分たちのまちは自分たちの手で守る」という理念のもとに、昼夜を問わず私たちのまちを見守っている各市町の消防団員の見事な水防工法が披露されました。

8年ぶり松田で合同水防演習



▲杭ごしらえも時間との勝負

自分たちの町は
自分たちで守る



▲県警によるヘリコプター救助



▲消防団による砂袋を使った土のうづくり

酒匂川鮎釣り解禁

酒匂川の鮎(アユ)釣りが6月1日(金)解禁となり、待ちわびた太公望が早朝から早速ポイントに陣取って釣りざおを振りまいた。昨年は前日からの台風の影響で流れの濁りがひどく、人出は例年より少なかったのが、こ

としては週末の曇り空で例年並みの鮎釣りファンの姿が見られました。酒匂川漁協の調べでは、十文字橋の上下流など7カ所のポイントで10〜16センチクラスの若鮎が5匹〜13匹前後上がったということです。下流の小田原地区では、18センチの大物も釣り上げられています。10月まで、夏の風物詩の鮎釣りが川辺で見られます。



▶酒匂川には待ちに待った鮎釣り客の姿が